



女性歯科技工士の新たな職域

濱田 英美 鹿児島県歯科技工士会所属
Yumi Dental Office 勤務



1. はじめに

あらゆる職種において女性の比率が高まっている時代、女性歯科技工士の占める割合は全体のわずか17%ほどである¹⁾。社会における若手の離職率上昇が懸念される昨今、歯科技工界においても女性が活躍できる場が増えることは、女性歯科技工士に新たな役割を与え、これまで以上に歯科衛生士同様女性に適した職業としての選択肢となってくる。

今回は、チームアプローチを行っている当院において、コーディネーターや歯科助手を兼務する女性歯科技工士としての役割をご紹介します。

2. 現在の仕事内容

1) コーディネーターとして

「聴く力」、「質問する力」、「伝える力」を必要とするコーチングを学び、初診コンサルテーション、治療に対するヒアリング、歯科補綴コンサルテーションなどを行う。とくに歯科補綴コンサルテーションにおいては、歯科技工士の立場でより具体的な説明を行う。時間を確保して個々のニーズを把握することで、歯科医院と患者の信頼関係を築くことができる。

2) 歯科技工士として

自費補綴の多い当院では、院内歯科技工士室での歯科補綴物製作は診断用模型製作やWAXUP、1st～ファイナルプロビジョナルレストレーション、ステントなど主にレジン系に限られていたが、新たにCEREC in Labを導入したことで今後CAD/CAMを用いた歯科技工においても、研鑽を積んでいきたい。

歯周病専門医として、歯周治療から最終補綴まで長期間を要するケースが多いが、歯科衛生士が担当制で口腔衛生をサポートするのと同様に、歯科技工士も期間を通じて治療のステップ毎に関わっている。

3) 歯科助手として

院内歯科技工室での作業だけでなく、アシスタント業務を行うことで、マンパワーとしての貢献だけでなく、歯科技工士としての立場から歯科医師のサポートを行う。また、歯科補綴物の適合状態や患者



の反応を直接うかがってコミュニケーションを図ることにより、コンサルテーションや歯科技工への情報伝達の参考となることが多く、お互いに良い結果が得られている。

3. まとめ

私自身、これまで歯科技工所での勤務や歯科助手としての勤務を数年間経験後、当院開業時から上記のような環境で活躍する女性歯科技工士を求められてもうすぐ6年目を迎える。コーディネーターと歯科助手を兼任する歯科技工士の存在は、治療期間を通して歯科医師のチェアサイドでのサポーターとして寄与するところが大きい。そのため多くの女性歯科技工士が歯科技工室内だけでなく、診療室内でも同じ役割を担って欲しいという院長の意見と同様、歯科医院に必要とされる新たな職域として、私と同じように誇りとやりがいを感じる女性歯科技工士が増えることを願いたい。

〔参考文献〕

1) 厚生労働省：平成22年度衛生行政報告例。

●問い合わせ先

Yumi Dental Office
濱田 英美 (はまだ えみ)
e-mail : info@yumi-d.com
URL : www.yumi-d.com